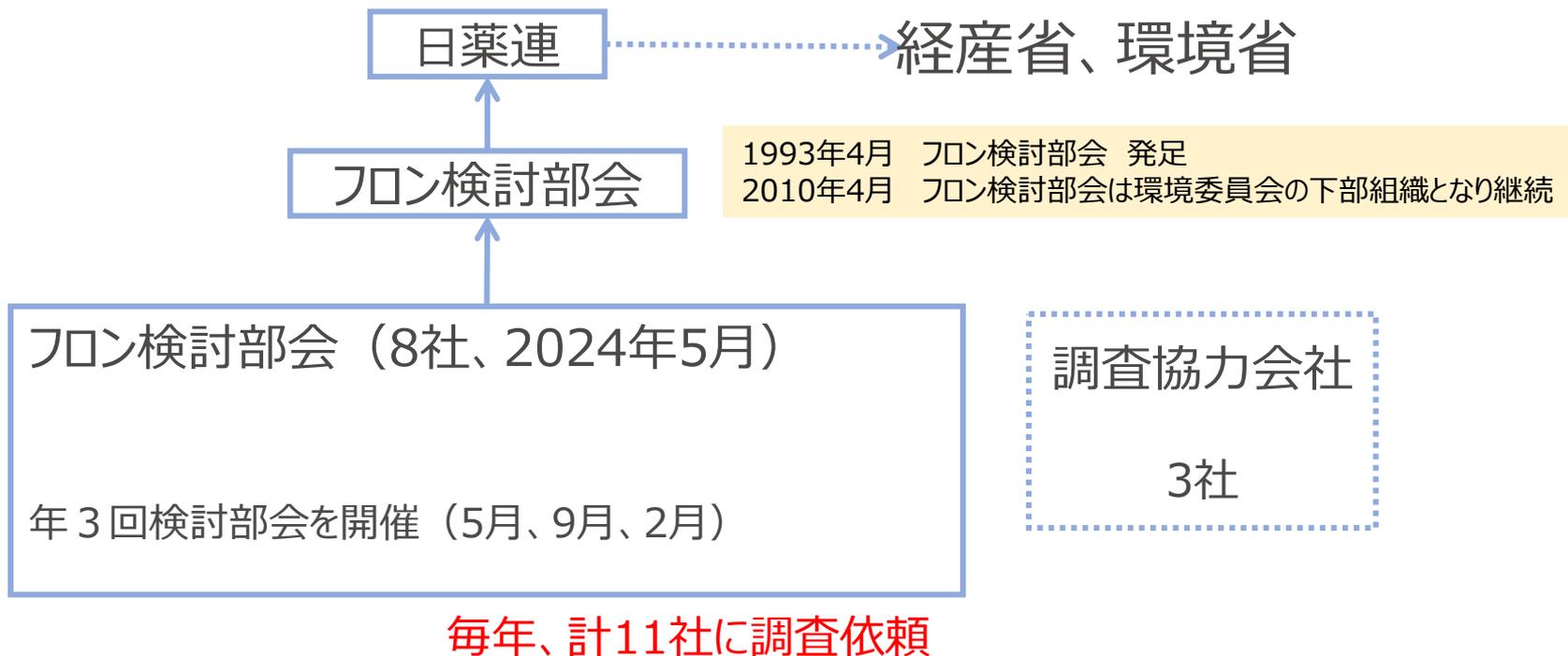




日薬連

日薬連フロン検討部会

フロン検討部会体制



フロン HFC使用実績・破壊・廃棄処理調査、HFC-MDI DPI販売量調査



- 毎年1月、対象となる会社に「HFC使用実績・破壊・廃棄処理量」、「HFC-MDI DPI販売量」の提供を依頼しフロン検討部会内で集計しています。
- この調査はUNEPへのHFC使用実績調査報告、また、同時に日本におけるHFC含有MDI／DPI等の代替製剤の実態を把握するための基礎資料となっています。
- これらの情報は、フロン検討部会が政府等に責任ある情報を提供するために必須のものとなっており、日薬連は、1994年から、現在まで調査に協力しています。

UNEP : United Nations Environment Programme (国際環境計画)
DPI (Dry Powder Inhalation) : 噴射剤を使用しない粉末吸入剤
MDI (Metered Dose Inhaler) : 定量噴霧式吸入器

1. 代替フロン排出削減に伴う諸問題につき、業界の共通対策を定め、迅速に対応できるようにする。
2. フロン含有製剤に関する業界の公正な意見を集約し、政府又はその他の関係機関に伝達する。
3. 代替フロン排出削減に係る国内外関係機関との連絡、情報収集等を行なう。

1. モントリオール議定書改正による国内規制の動向監視
2. 今後の自主行動計画のテーマをどこに向けていくのか
3. 代替ガスの開発と普及に関する動向監視

自主行動計画の取組みおよび課題



①現在の取組

既存のHFC-MDIからDPI等への転換、及び新規吸入剤をDPI等を優先的に開発
HFC-MDIの製剤改良、配合剤の開発によりHFCの使用量を減らすこと
製造時に回収したHFCの破壊処理、及び回収品・不良品中のHFCの破壊処理

②今後の取組方針と課題

今後とも上記①を継続致します。

HFC-134a及びHFC-227eaに代わる噴射剤については今後とも当業界にて、技術的及び世界的な対応状況等を踏まえ継続的に検討。

またDPIは自己の吸気で吸入する仕様であることから地球環境へ影響を与えない効果がある一方でDPIを使用できない、又はMDIの使用を選択される患者向けにエッセンシャルユースとしてMDI製品を供給することは今後も必要になる。今後患者側のニーズについても検討を行っていく。

③低GWP噴射剤を使用したMDIに対するスタンス

MDI製剤には、物理化学的性質、安定性、安全性等々、使用する噴射剤として種々の特性が要求されます。低GWP噴射剤のMDI開発には多大のリソース（人材、資金、時間）が必要で、国際的な認知と協力体制が必要と考える。